

オンライン診療に関するアンケート結果について

「オンライン診療に関するアンケート」

実施主体 : 日本医師会

実施対象 : 都道府県医師会長

回答数 : 47(全都道府県医師会)

実施時期 : 2021年12月～2022年1月

2022年1月19日

日本医師会 定例記者会見

■オンライン診療に関するアンケート・結果サマリ

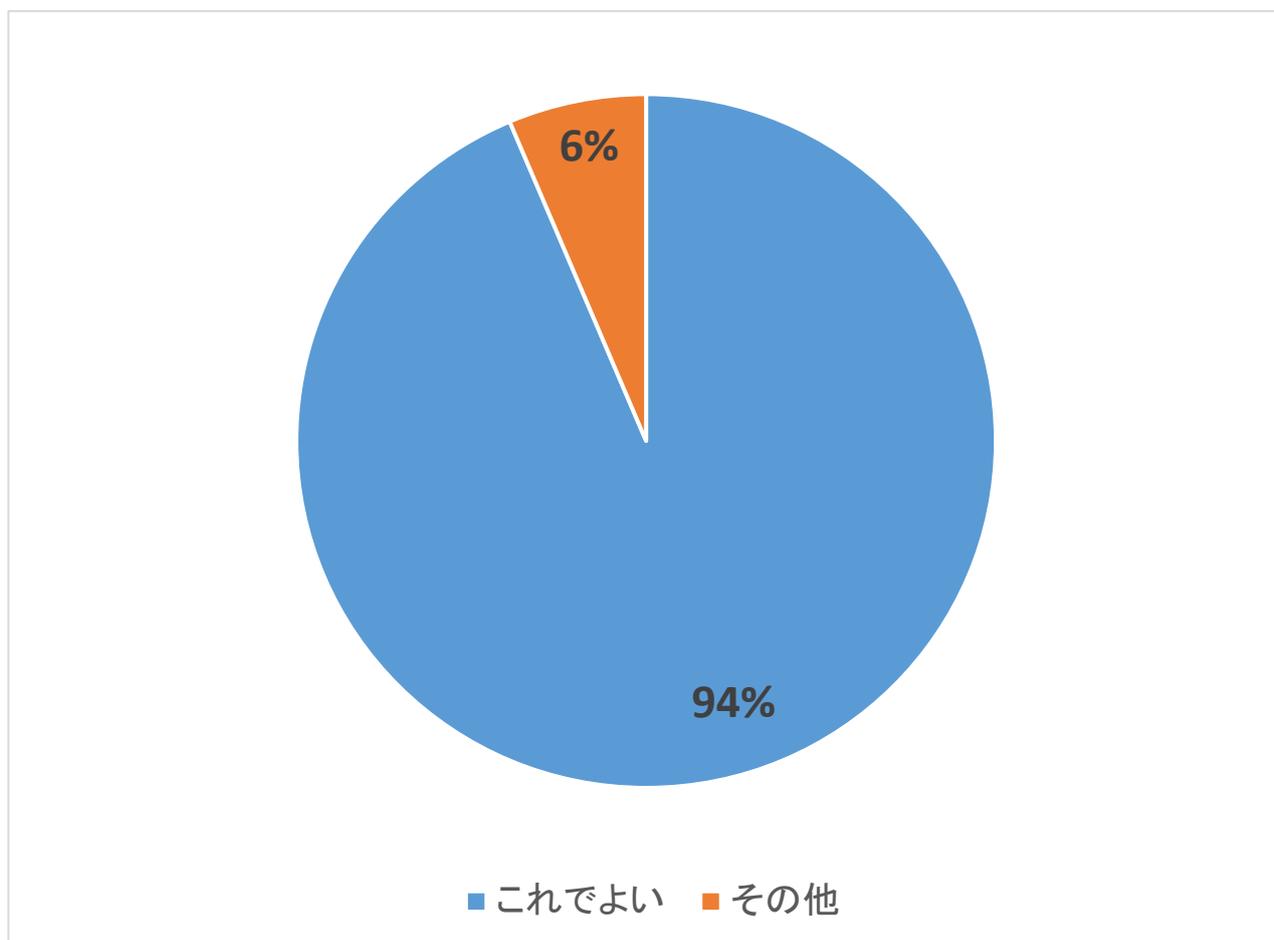
回答数:47件

設問1～3は「医師会名」、「担当者名」、「メールアドレス」のため、設問4からの回答を記載いたします。

4.オンライン診療に関する基本的な考え方について

日本医師会の「オンライン診療は、解決困難な要因によって、医療機関へのアクセスが制限されている場合に、対面診療を補完するもの」との基本的な考え方について、

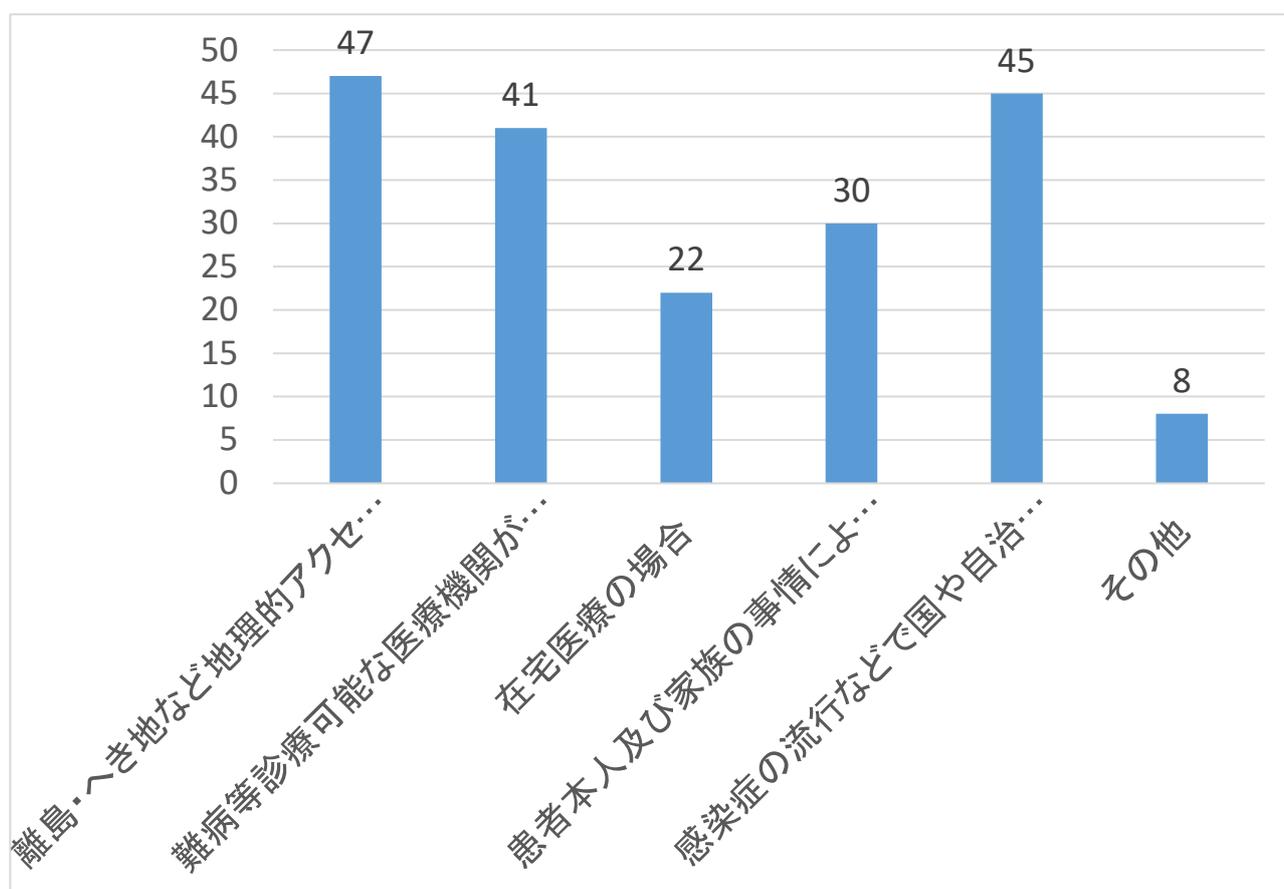
これでよい	44
その他	3



5.医療機関へのアクセスが制限される解決困難な要因について

以下のうち、「解決困難な要因によって、医療機関へのアクセスが制限されている場合」に相当すると考えられるものはどれですか。(複数回答可)

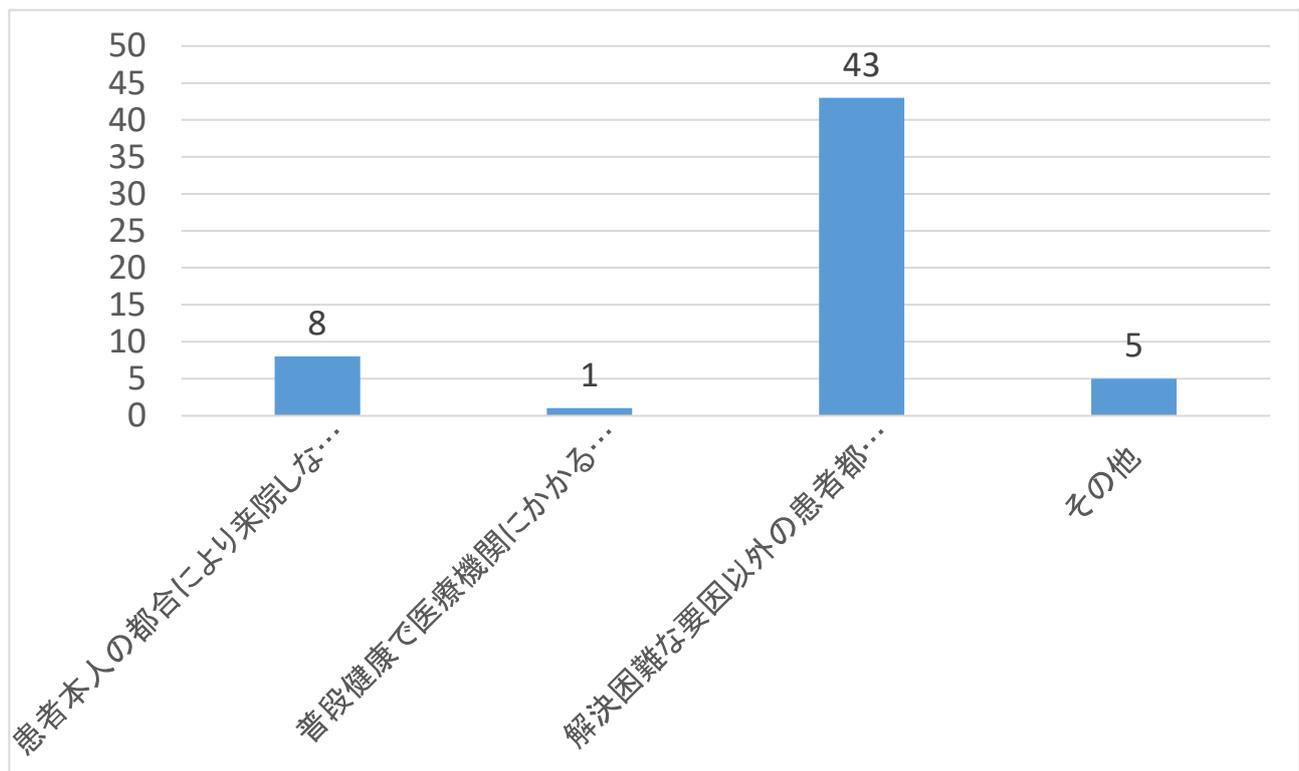
離島・へき地など地理的アクセスが制限されている場合	47
難病等診療可能な医療機関が限られている疾病に対する場合	41
在宅医療の場合	22
患者本人及び家族の事情により来院困難となった場合(移動が困難な高齢者、妊婦、小児など)	30
感染症の流行などで国や自治体から外出の自粛が要請されている場合	45
その他	8



6.患者本人の都合によりオンライン診療を希望される場合について

以下のうち、オンライン診療を行ってもよいと考えられるものはどれですか。(複数回答可)

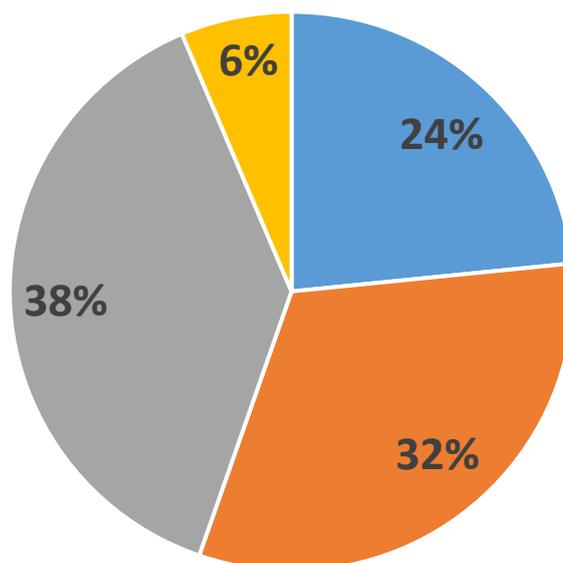
患者本人の都合により来院しない場合(例:多忙なビジネスパーソン等)	8
普段健康で医療機関にかかる機会が極めて少ない患者の場合	1
解決困難な要因以外の患者都合で行うべきではない	43
その他	5



7.対面診療なしで、オンライン診療のみで完結する診療について

※前提としていずれも医師の裁量による判断は必要

一切認めるべきでない	11
基本的には認めるべきでないが、結果的にオンライン診療のみで完結してしまった場合は、やむを得ず認める	15
指針で認められている診療(禁煙外来など)のみ認める	18
その他	3

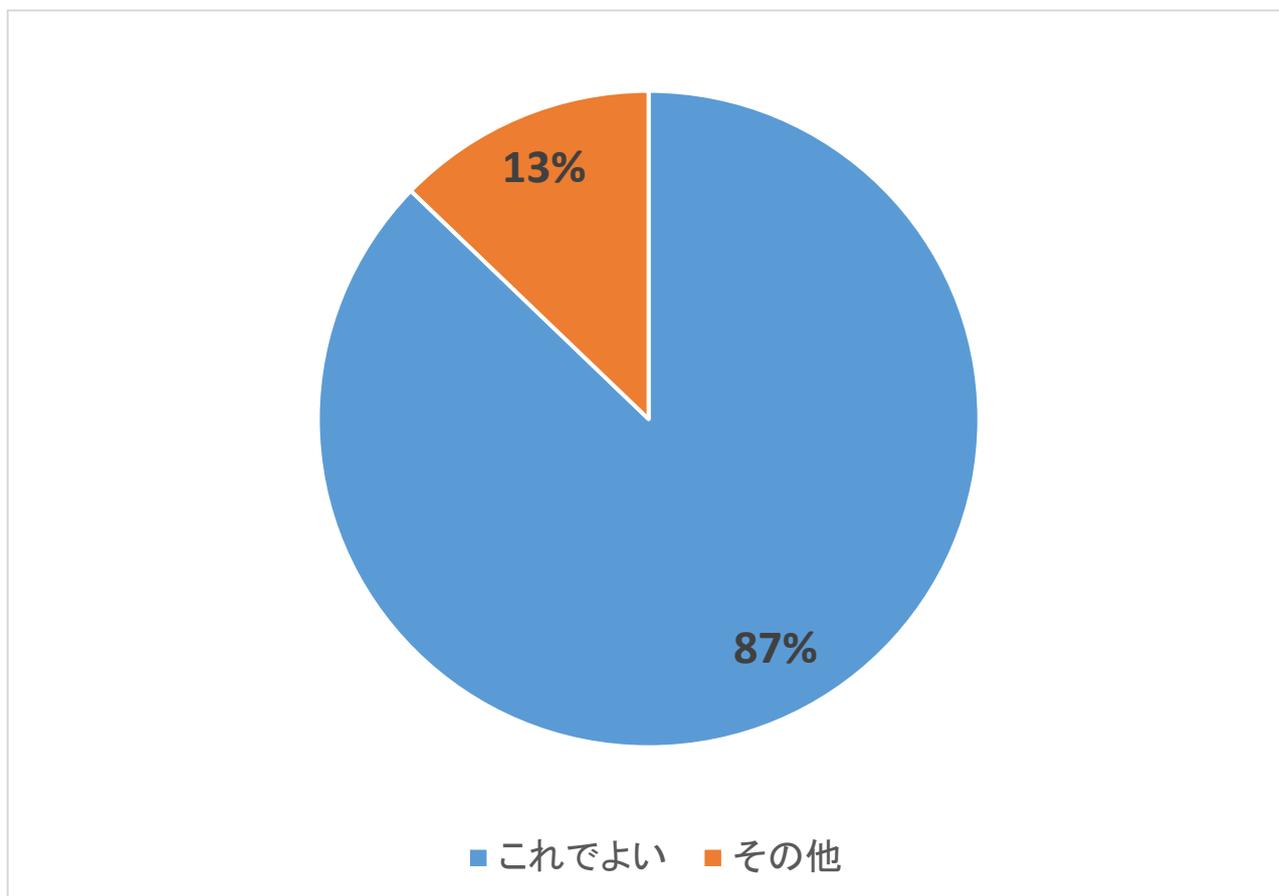


- 一切認めるべきでない
- 基本的には認めるべきでないが、結果的にオンライン診療のみで完結してしまった場合は、やむを得ず認める
- 指針で認められている診療(禁煙外来など)のみ認める
- その他

8.初診からのオンライン診療に適さない症状について

日本医師会は、日本医学会連合の「日本医学会連合オンライン診療の初診に関する提言」に沿って、医師が「緊急性」や「情報量や対応手段の問題」から、初診からのオンライン診療に適さない症状ではないと判断できる場合のみ行うべきと考えています。このことについて、

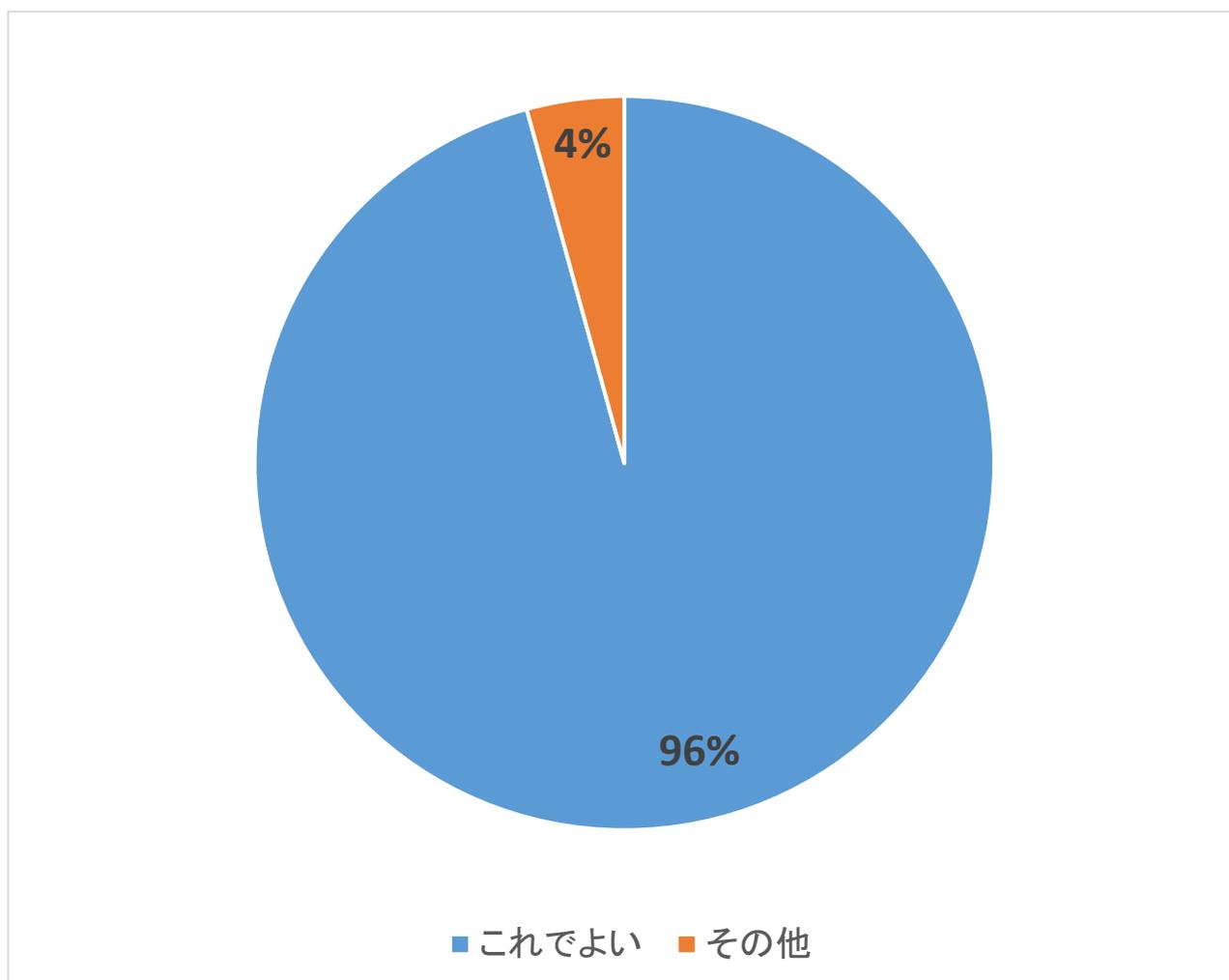
これでよい	41
その他	6



9.初診からのオンライン診療に適さない処方について

令和2年4月10日発出の時限的・特例的取扱いでは一定の医薬品(麻薬及び向精神薬並びに診療報酬における薬剤管理指導料の「1」の対象となる薬剤)の処方を禁止しています。そして処方日数の上限を7日としています。日本医師会はこれを指針にも盛り込むべきとしています。この考えについて、

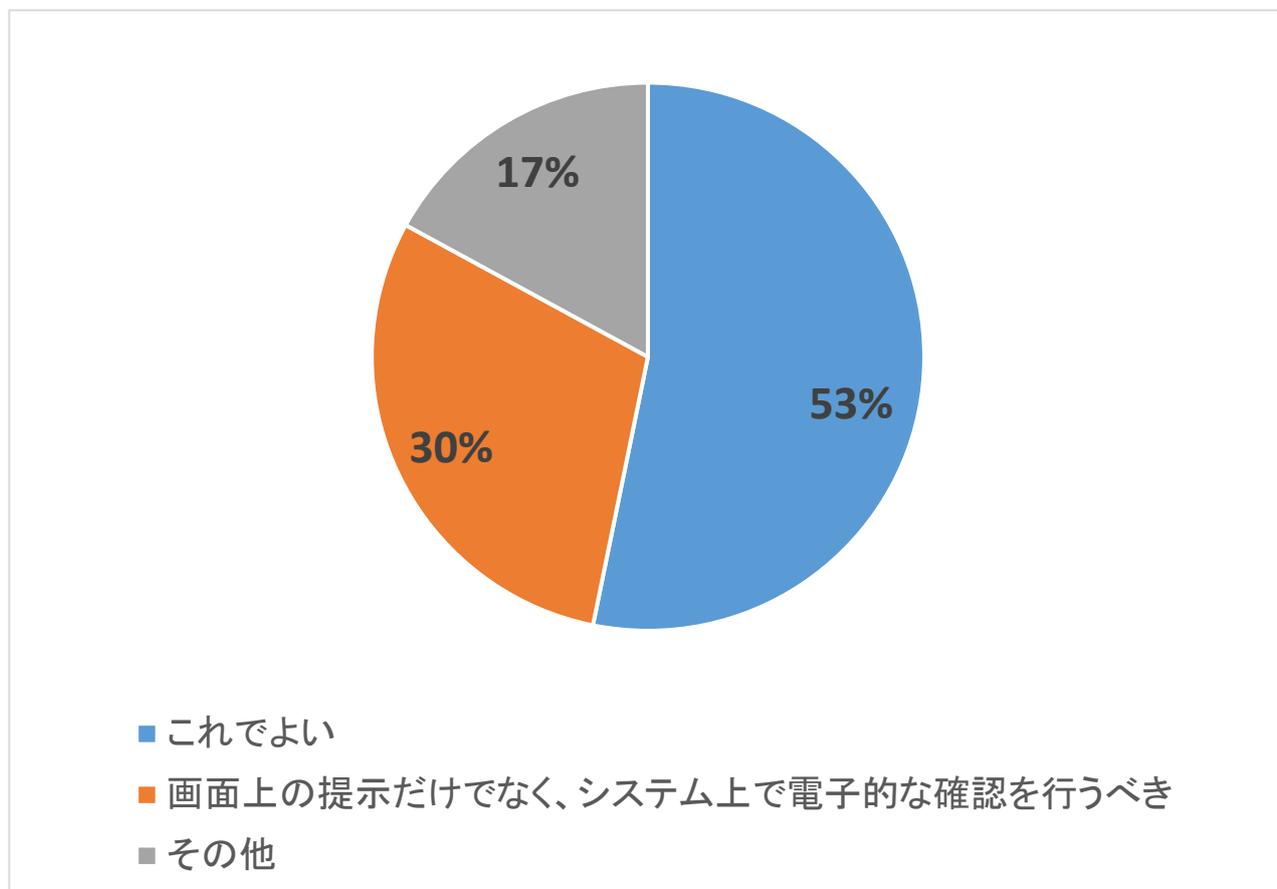
これでよい	45
その他	2



10.医師の資格確認、患者の本人確認について

日本医師会は、初診からオンライン診療を行う場合に、医師、患者相互に医師の資格確認、患者の本人確認を厳密に行うことが必要と考えています。ガイドラインでは、医師はHPKIカード(医師資格証)や医師免許証、患者は保険証やマイナンバーカード、運転免許証等の提示が挙げられていますが、この考え方について、

これでよい	25
画面上の提示だけでなく、システム上で電子的な確認を行うべき	14
その他	8

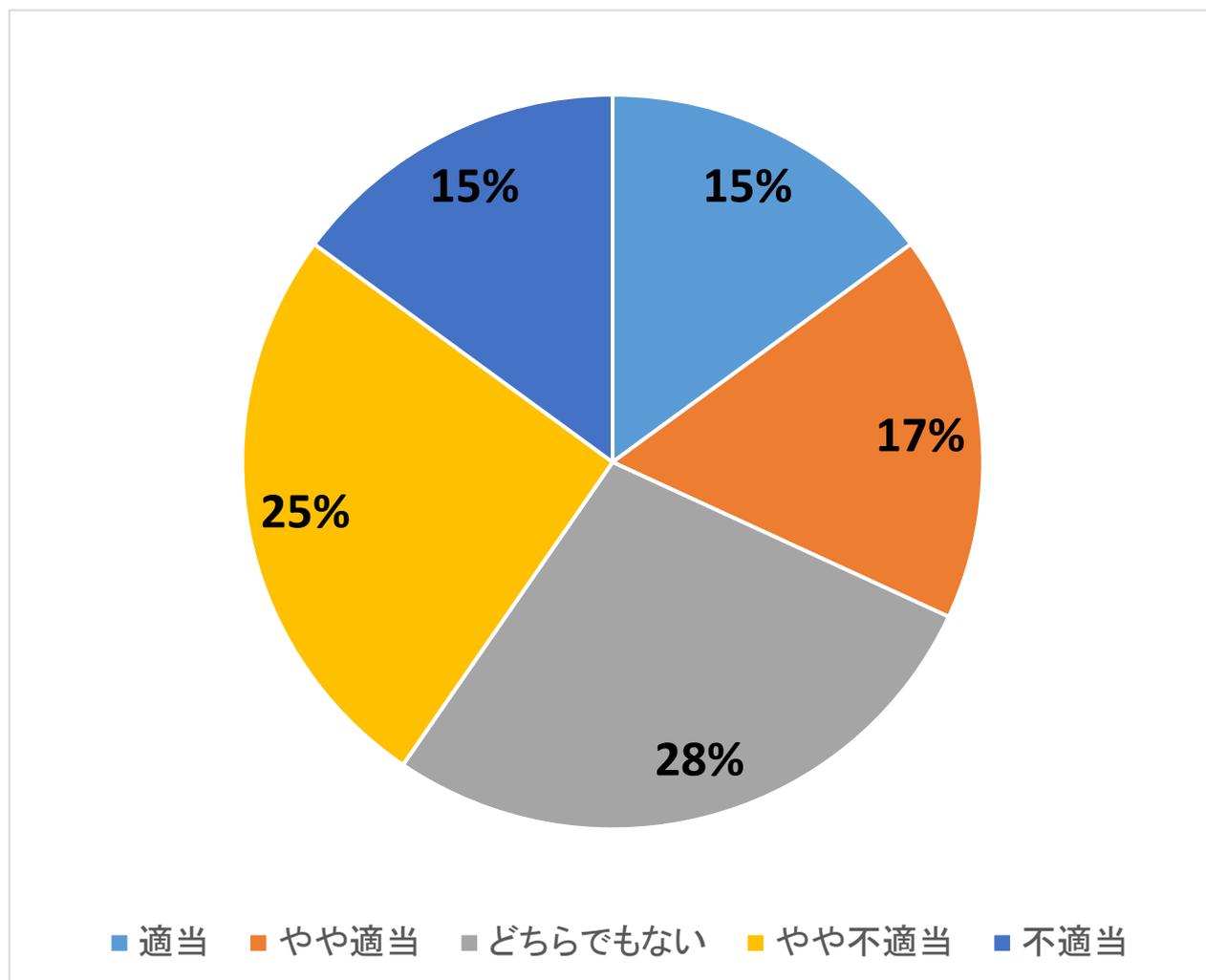


11.オンライン診療で使用する情報通信システムについて①-A

オンライン診療の実施に当たって、コスト面や普及のしやすさ等も考慮すると、以下のシステムを使用するのはどの程度適当と考えますか。

オンライン診療専用システム(業者が有償で提供する、予約機能や患者自己負担の決済機能などを備えたオンライン診療に特化したシステム)。

適当	7
やや適当	8
どちらでもない	13
やや不適當	12
不適當	7

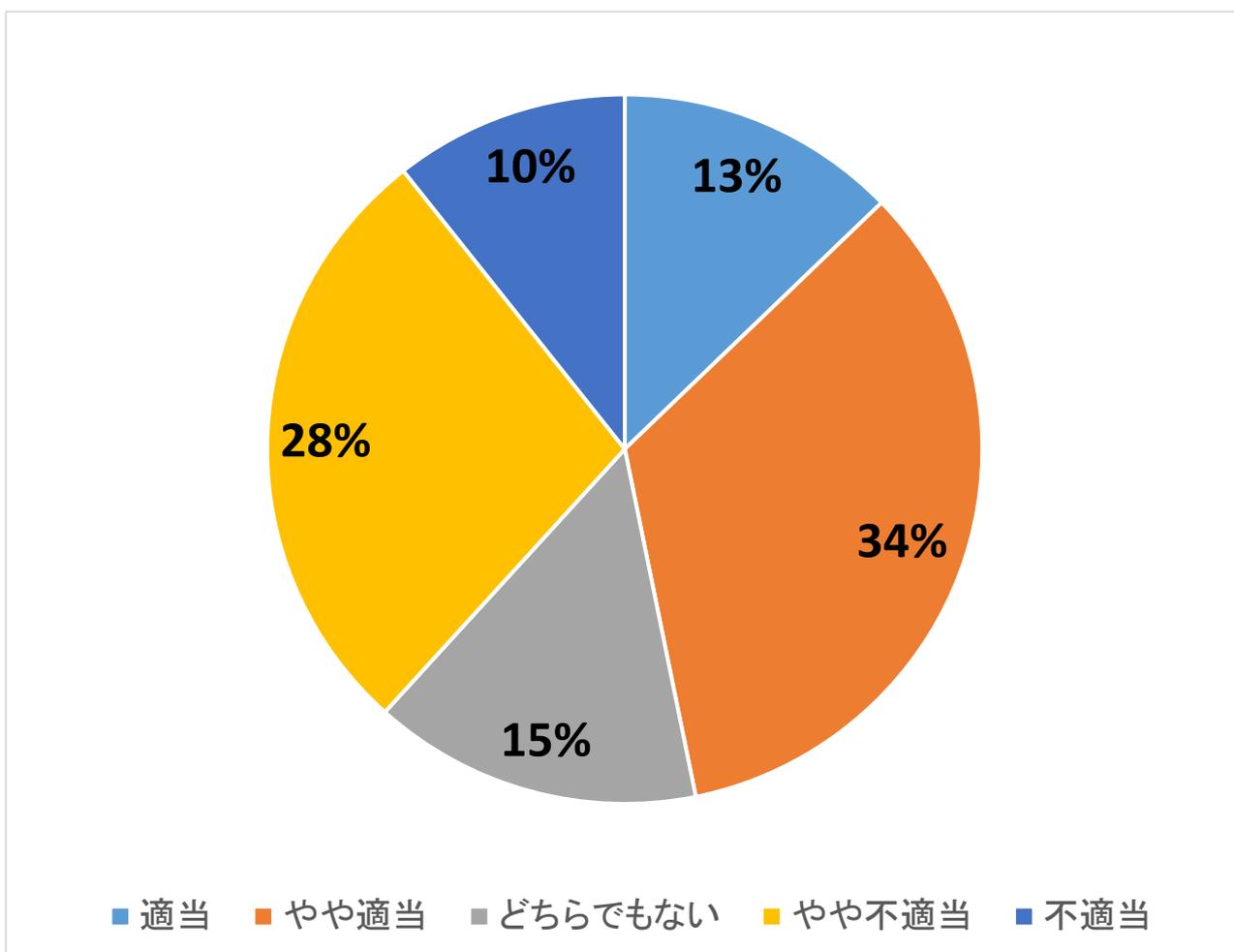


12.オンライン診療で使用する情報通信システムについて①-B

オンライン診療の実施に当たって、コスト面や普及のしやすさ等も考慮すると、以下のシステムを使用するのはどの程度適当と考えますか。

汎用システム（Web会議やTV電話など、映像と音声を双方向でやり取りできる一般的なシステムで、専用システムと比較すると安価に利用可能）。

適当	6
やや適当	16
どちらでもない	7
やや不適当	13
不適当	5



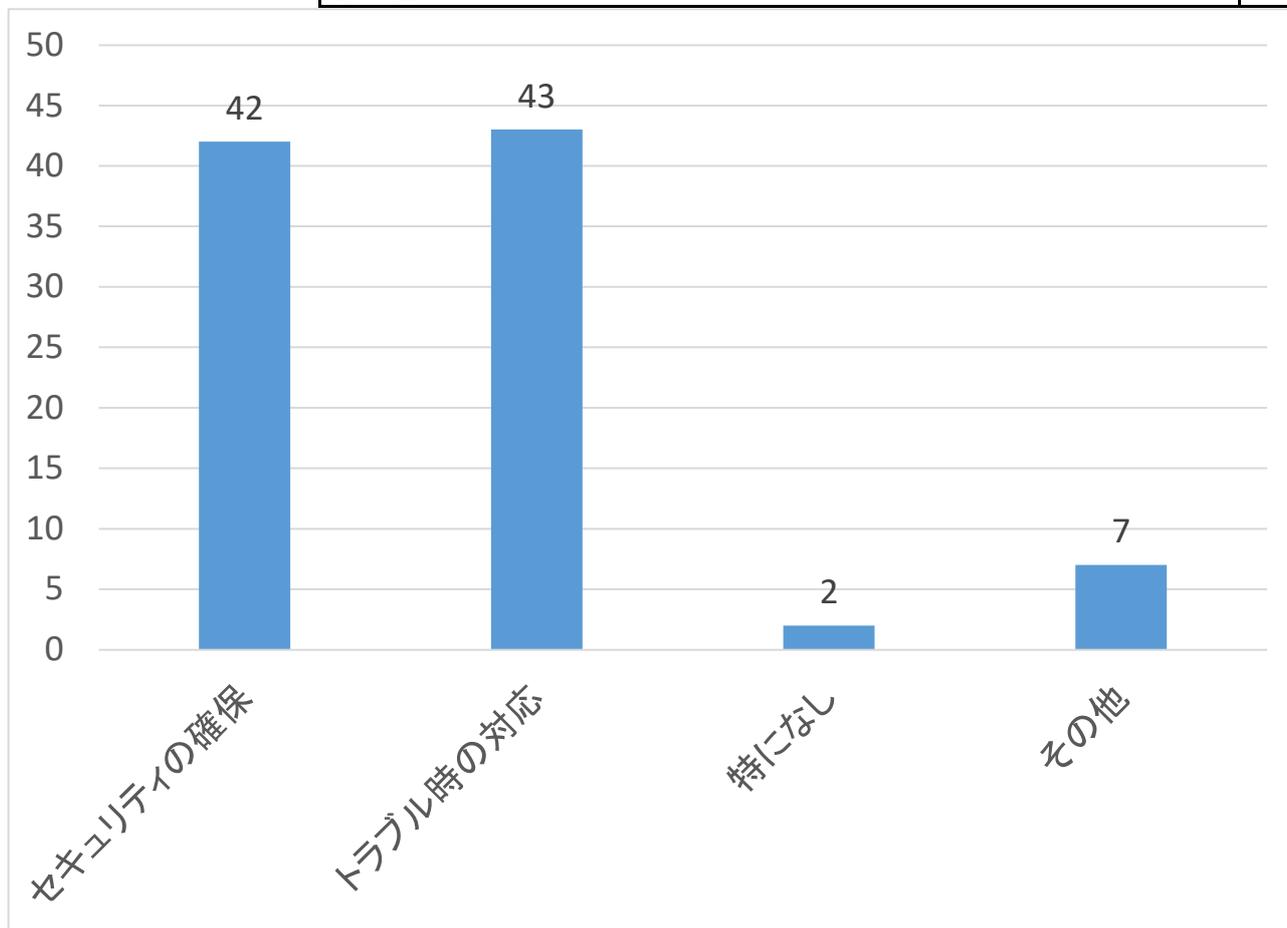
13.オンライン診療で使用する情報通信システムについて①-C

オンライン診療の実施に当たって、コスト面や普及のしやすさ等も考慮すると、質問11、12以外のシステムで適当と思われるシステムがあればご記載ください。

14.オンライン診療で使用する情報通信システムについて②

オンライン診療を利用する際に、システム事業者が提供すべきと思われる運用サポートはありますか。(複数回答可)

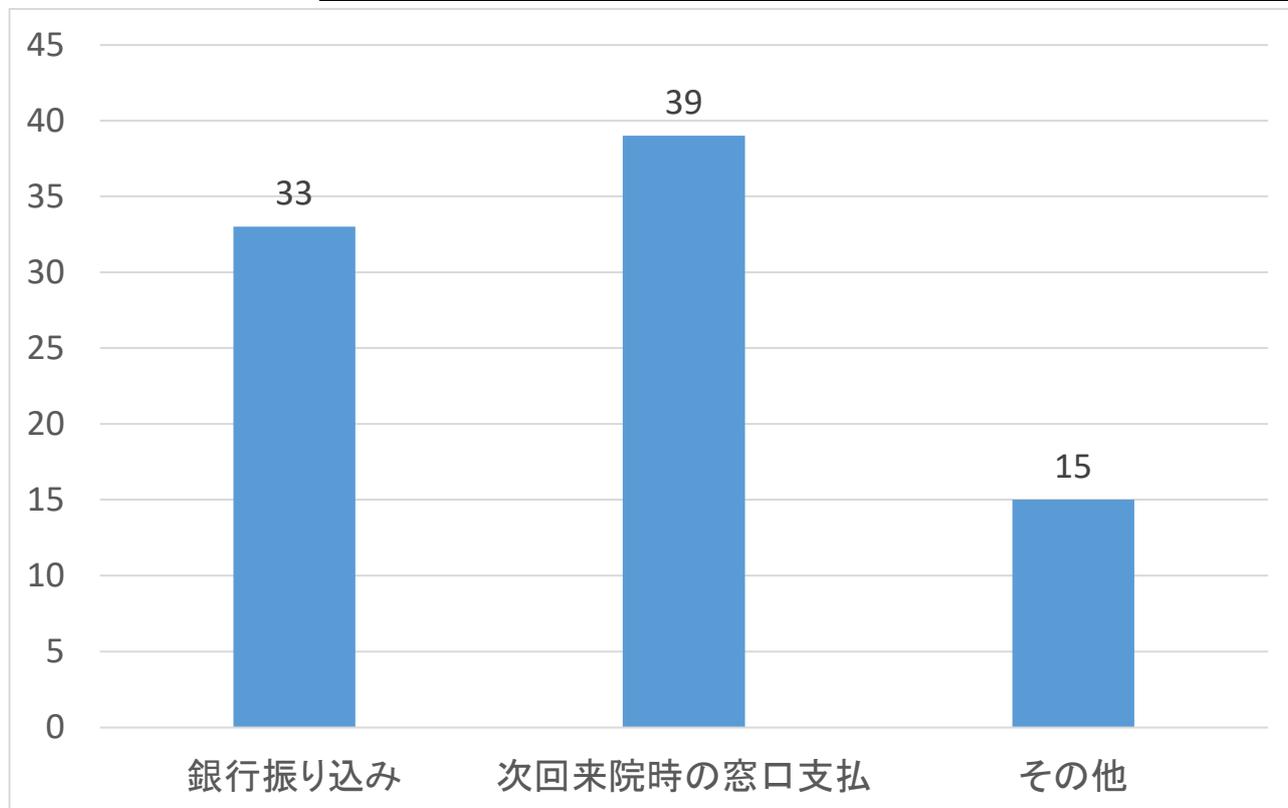
セキュリティの確保	42
トラブル時の対応	43
特になし	2
その他	7



15.オンライン診療を行った際の患者の自己負担額の回収方法について

患者自己負担の決済システムのない汎用システムを使用した場合、どのような方法で自己負担額を回収するのが望ましいとお考えですか。(複数回答可)

銀行振り込み	33
次回来院時の窓口支払	39
その他	15



16.オンライン診療が真に必要とされる場所(離島・へき地、難病等)に普及するために必要と考える事項(または、真に必要とされる場所に普及しない理由)についてご意見をお聞かせください。

17.医療機関が、必要とするオンライン診療を低コストで適切に進めていく上で、日本医師会に求める支援の方策など、ご意見・ご要望がありましたら、お聞かせください。